

尚美学園大学尚友会第10回定期総会報告

会場：株式会社ライセンスアカデミー東京本社会議室

全国の卒業生の皆さん、こんにちは。6月22日（土）に開催された「2024年度第10回定期総会」は盛会裡に終了しましたのでご報告致します。

先に行われた役員会において、引き続き会長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願い申し上げます。

当日は、ご多用の中、大学側より永山賀久学長様、オンラインで、芸術情報学部長 恩田憲一教授、総合政策学部長 金原由紀子教授、スポーツマネジメント学部長 小泉昌幸教授、情報表現学科長 石井 満教授、音楽表現学科長 後藤文夫教授、舞台表現学科長 山崎岩男教授、教職・資格課程センター長 大野好司教授をはじめ、多くの大学関係者のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、尚美ミュージックカレッジ専門学校尚美同窓会理事長 佐藤日呂志様からも祝電をいただきました。本当にありがとうございました。オール尚美として今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



—会長より開会の挨拶—

皆さん、こんにちは。開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

まずは、2024年元日に発生した能登半島地震で被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、現在、復興にご尽力されている方々へ敬意を表します。

尚美学園大学尚友会の皆様

におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。第10回尚美学園大学尚友会定期総会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。また、日頃より同窓会の活動にご理解ご尽力いただき、重ねて御礼申し上げます。

本日は、永山賀久学長・尚美学園理事長にも対面でご臨席を賜りました。永山学長は、この4月から第5代学長に就任され新しい体制となりました。学長は所信表明で「優れた人材の育成に向けて、たゆまぬ挑戦を続けていきます」というメッセージを発信され、建学の精神「智と愛」のもと、オール尚美で『未来知』により社会に貢献するという未来社会をけん引する尚美ブランド人材の育成と、関東、いや世界の研究拠点の形成に全力で取り組む決意を述べられました。

さて、我が国を取り巻く状況は、行き過ぎた円安や中国・欧州を中心とした世界経済の停滞、地政学リスクの高まり、国内政治不安の深まりなど、内外でのリスク要因の顕在化により、先行きにも不透明感のある状況となっております。

また、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行したことに伴い、コロナ禍からの経済活動の正常化の動きが加速することで、内需主導の景気回復が実現するとの期待感があったものの、諸物価高騰による消費者の生活防衛意識の高まりから、個人消費の低迷を主因として内需は減速しており、むしろ期待に反し景気の下押し要因となっております。さらには、少子化は、地域の経済活動や社会保障機能の維持に支障を来すなど、日本の未来を左右する喫緊の



課題です。

このような状況の中、会員一人ひとりがこれまで以上に同窓会活動としての尚友会に関心を持ち、若い卒業生をはじめ各世代の方々に主体的・積極的に参加していただける「会員ニーズと時代にマッチした魅力的なネットワーク」を展開して参りたいと思っております。

同窓会は同窓生一人一人にとってどういう存在なのだろうと考えると、必ずしもすべての人が同窓会を身近に感じているとは言えないのではないのでしょうか。今、同窓生の数は3万人にのぼりますので、一人一人の持てる力は小さくとも、3万人の力を合わせれば、多くのことが成し遂げられそうな予感がします。多くの同窓生にとって、もっと身近で、親しみやすい「同窓生のための同窓会」となるよう努力したいと思えます。

もちろん、母校である尚美学園大学の発展に寄与することが重要なことは言うまでもありませんが、私たち同窓生の結束があって初めてなしうることと思えます。

さて、令和5年度の活動を振り返りますと、柴崎幹事長を中心に、尚友会事務局である学生課と連携を密にして、新規事業であります「尚友会コンサート」の実施や、学生支援事業では、カフェテリア（ナイス株式会社様）より、カレーライスサービスランチの提供を後援会とともに行いました。

また、キャリアセンターとの連携事業として、カフェテリアにデジタルサイネージ用モニターを設置しました。

このモニターを利用して、より一層多くの学生に尚友会や就職情報等を告知していければと思っております。

さらに、全国支部活動についてですが、埼玉総支部の設立により、関東における中心的な役割を担う同窓会活動を支援し、今後も支部活性化のために支部長と連携を密にして、卒業生の絆を深めていきたいと思えます。

尚美学園大学の発展を願い、大学を支えると同時に、卒業生にいろいろな活動を提供しつつ、建学の精神である「智と愛」のもと、「社会に役立つ人の育成」を実際の社会において行ってきました。この長い、心温まる歴史を持つ同窓会は、今もいろいろな意味で成長を続けています。今回のオンライン総会の例にみられるように、新たな方法でネットワーク構築などを含め、さらに活動の範囲を広め、深めていきたいと願っています。

最後になりますが、これからも全国の卒業生の皆様と一層連携を密にして、尚美学園大学の発展と、尚友会の活性化に努めていく所存であります。全国の会員の皆様はじめ関係各位の皆様方には、今後とも引き続き御支援、ご協力をお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○松田副会長の司会進行で議案審議に入る。

○第1号議案 2023年度事業報告案について

2023年度の総会は、新型コロナウイルスが5類に移行したとはいえ、会員の皆様はじめ総会出席者の方々の健康や安全面を考慮して、総会の開催をWeb開催オンライン方式とさせていただきました。

概況にありますように、2023年度事業は、卒業生並びに大学関係者からのご支援ご協力を賜り実施致しました。主な事業のうち、第9回定期総会についてはオンライン開催と致しました。

○第2号議案 2023 決算報告案、貸借対照表及び監査報告について

はじめに会計担当高井理事より、科目別に大項目のみ読み上げました。

- ・収入の部、会費 15,520,000 円、維持会費 133,843 円、前年度繰越金 17,697,585 円
収入の部総計：33,451,625 円
- ・支出の部、本部費 2,968,454 円、事業費 7,332,028 円、助成費 6,140,000 円、周年記念事業費 5,000,000 円
- ・支出の部総計 24,910,982 円

収支の部：総計 8,540,643 円が次年度繰越金となります。

- ・次に貸借対照表であります。資産の部：合計 38,543,199 円

この後、監査報告を井戸監事が読み上げました。



○第3号議案 役員改選について

第10条役員を選任及び任務について、先に行われた役員会において、小山内会長が指名を受けたことから、新役員について小山内会長から読み上げが行われました。その後、新規役員となった宮本理事と斎藤理事より就任の挨拶がありました。

○第4号議案 2024 年度事業計画案、第5号議案予算案について

・2024 年度は、さらなるアフターコロナの活性化を目指し、尚美学園 100 周年を見据え、加速していきたいと思っております。社会様式の大きな変化に加え、国家間の対立による資源高騰が進み、私たちにとっては、先がなかなか見通せない状況であります。

そのような状況の中、今年度は、緊縮予算とさせていただきます。昨年度開催した新規事業の「尚友会コンサート」は引き続き第2回として開催します。

社会環境のこの大きな変動期に、同窓会を活性化させる人、支部をはじめ卒業生を支えることにより、尚友会は社会に貢献していきます。

今後の状況の推移を見ながら、オンライン会議システムの活用なども含めて、可能な限り会員に対する支援を図るよう努めてまいりたいと考えております。

・尚友会事業では、第10回総会をオンライン形式で行うなどお示しした9つの事業を展開します。特に、8番目のキャリアセンターとの連携による学生募集や就職支援に関わる連携事業、さらには国際交流室と連携を取り海外留学生等とのネットワークの構築を進めていきます。9番目の専門学校同窓会組織と合同で進める尚美学園 100 周年記念事業に向けての連携を強めていきます。

・助成事業では、昨年度は学友会活動への助成をはじめ、助成交付金の基準を見直し、イベント助成を積極的に活用していただけるように広く周知してまいりました。結果として多くのイベントへの助成をさせていただきましたが、中には領収書等の不備により助成できなかったイベントもありました。今後は、申請責任者は申請書類の不備がないように努めていただくようお願いいたします。

・また、適宜支部長と連絡を密に取り合いながら、本部から支部活性化に積極的に関わっていき

たいと考えています。特に、芸術情報学部音楽表現学科の入学生確保について各支部とも連携を取りながら、学生募集支援事業の活用など具体的に打ち手を考えていきたいと思っております。全国の尚友会の皆様の熱いご支援をお願い申し上げます。

・さらに、会員の皆様からも今後の同窓会活動の進め方について、ご意見・ご提案があれば遠慮なく賜わりたいと存じます。

以上の説明の後、2024年度予算案では、会計担当高井理事より、科目別に大項目のみ読み上げられ、小山内会長より「会員の皆様からも今後の同窓会活動の進め方について、ご意見・ご提案があれば遠慮なく賜わりたい」との発言がありました。

○第6号議案 会則改正について

・同窓会活動の財政的基盤は全面的に終身会費に依存しております。昨今の物価高の高騰を受けて財政状況は極めて厳しい状態にあります。今後の学生支援助成等を維持するためにも尚美学園創立100周年を機に、2026年度より、尚友会終身会費を改定します。

現行会費は、準会員が納める終身会費とする。会費は、原則として、入学時20,000円としておりますが、改正後会費は、準会員が納める終身会費とする。会費は、原則として、入学時40,000円といたします。

尚、会則に2026年度入学生からと但し書きを入れます。

○司会の松田副会長より、以下の確認を行った。

議題について、慎重かつスムーズなご審議をいただき、すべて可決承認され、報告事項も含めて、滞りなく無事に終了しましたことを、ご報告します。

本日は、昨年に引き続きオンラインによる総会を実施しました。全国各地から参加いただき、貴重なご意見やご要望を頂戴致しました。

地域や組織によっても社会状況や諸事情に違いがあるため、支部や学部学科同窓会と本部の連携をより強固にし、皆さまが安全に、安心して「体験」や「情報」が共有でき、親しく交流できるスタイルを改めて構築し、未来を創造していかなくてはなりません。

こうした意識を、会員の皆さまと共有するために、尚友会では、尚美学園創立100周年記念事業に向けて、キャッチフレーズではありませんが「未来へつなぐ尚美魂 Link the Spirit of SHOBI to the Future」を掲げ、邁進する所存です。

これらを、本会の会則に定めた「活動の趣旨」と合わせ、私たちの理想として高く掲げ、2026年度に尚美学園創立100周年を迎えられる学園本部と手を携え、「建学の精神」を実現させる車の両輪として、力強く邁進したいと考えております。

永山新体制となった母校尚美学園大学を今後とも微力ながら応援させていただくためにも、主旨ご理解・ご賛同の上、ぜひ多くの会員の皆様からの寄付をお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今後も会員の皆様のより一層お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

○以上をもって、第10回定期総会が終了した。

○総会終了後に、功労者表彰として、久保公人前名誉会長、理事を退任された山下友子前理事、市川雄一郎前理事に感謝状が贈呈されました。



